



逆し獣姦魔法少女イリヤちゃん♡

監禁逆レイ? 変態挑発レイ? 獣姦撮影会♡

DOJIN
R18
成人向け

女騎士の城

18歳未満の
購入・閲覧禁止

女騎士の城

私の名前は、イリヤスフィール・フォン・アインツベルン。魔法少女をやっています。魔法少女をやっている。私は魔力供給用のタンクとして、人間の男達を廃墟と化した城にある地下牢に監禁しています。私は今日も魔力の補充のため、その地下牢へとやって来ました。

「イリヤ」

「精液タンクのお兄さん達♡今日の魔力補充のお時間ですよ♡」

はははは

はははは

ヒキキ

ひひひ

私がそう告げて、大きく足を広げてオマンコを見せると、魔法によって自我を封印した男達が、一斉にペニスを勃起させていきます。私はその中の一人に跨って、そのペニスを狭い膣穴で咥え込みました。



【男】「ウゴオオオオオオツツツ…！ アアアアアツツツ！」
「イリヤ」「ひっ♡ んあああつつ♡♡♡」

私が男のペニスを挿入すると、男は自我を失っているにも関わらず、大きなうめき声をあげて、腰をビクンビクンと跳ね上げます。自我を保っていた頃はロリコンだったので、その本能でしょうか。

「イリヤ」

「ほらほらっ♡ もっと腰を突き上げてっ♡
イリヤの子宮にオチンチンねじ込んでっ♡」

【男】「オゴツ…！ オオオオアアアツツ…！」

私は魔力を最大限に吸収できるよう、魔法を使って子宮口を開き、子宮内にペニスが入るようにします。それが気持ちいいのか、ロリコン男はひたすらに私の子宮内部を突き上げ、腰を振り続けています。



「お兄さんは確か裸の方が興奮するんだっけ？」

ほら、これでどう？ クスクス♡」

私が変身を解いて裸になり両足を広げると、今度はチャライ外見の男が、興奮して襲い掛かってきました。

はまはま

「オオオオオツツ…! オアアツツ!」
「イリヤ」 「うわっ♥ お兄さん」

「うわっ♡ お兄さんがつつきすぎっ♡」

チャラ男は興奮しながら、私の子宮を突き上げ、激しいレイプをしてきました。チャラ男は腰を突き上げながら射精し、私の子宮奥に精液を押し込んで来ます。膣の隙間から精液が飛び散る感触で、私は再び絶頂の快楽を味わっていました。



そしていつも通り、全員から1回ずつ搾り取った所で、男達は動かなくなりました。

【私】「はあっ…♥ はあっ…♥ も、もう終わっちゃった…♥」

【私】「んっ…♥ でも流石に、精液の質も魔力の質も、悪くなって来たかな…」

私がオマシコを広げると、奥からは男達の精液があふれ出し、地面に水たまりを作ります。いくら自我を封じ本能がむき出しとは言え、一か月以上、毎日搾り取つていれば、精液や魔力の質が下がるのは当然です。そろそろ新しい玩具が欲しいかも。そう考えた私は、街に潜む変態を釣り、新たな精液タンクを作る事に決めました。



私は深夜になるのを待ち、制服に着替えて繁華街へと向かいました。
この時間になると、私のような年頃の女の子は出歩いておらず、
私は残業帰りのサラリーマンや、夜遊びする男達の注目を集めます。

【通行人】

「うわ、あの子可愛いな...○学生くらいかな？」

【通行人】

「こんな時間に家出か...？それともヤバイやつか...？」

【通行人】

「身なりも良くて上品な雰囲気だし、家出では無さそうだけど...」

【通行人】

「うーん、関わらない方がよさげだな...」

ドキ



ザッ
ザッ

はあ

通行人たちの噂話が、魔法で聴力を高めた私に耳に届きます。
当然、彼らはそんな噂話をするだけで、私を遠巻きに眺めています。
しかしそんな中、呼吸を荒くしながら、私の後をつけて来る足音が聞こえてきました。

【変態】「はあっ...はあっ...○学生美少女...はあっ...はあっ...」

変態が釣れたようです。私は変態を誘導するように、人気の少ない路地裏の方向へと歩いていきました。



人通りの無い路地に入り込むと、より鮮明に変態の発する音が聞こえてきます。

【変態】「はあっ…はあっ…あの美少女の家を突き止めて…盗撮して…下着を盗んで…」

まさか私に聞かれていると思っていけないのか、そんな事をぶつぶつ呟いています。

犯罪的な性欲丸出しのその呟きに、私も次第に興奮し、我慢が出来なくなってしまう。

完全に人が居ない事を確認した私は、変態に向かって振り返りながら、
下着の両端を裂き、下着だった布切れを地面に墮としました。

山崎



イリヤ

【変態】「はあっ…はあっ…え、えええっつー!？」

「イリヤ」 「クスクス♥ 私の下着くらい、欲しければあげるから♥」

その代わり、イリヤのお願い聞いてくれる? ロリコンのおにーさんっ♥」



私の突然の行動と発言に、変態は混乱して固まっています。

私はそんな変態の手を掴み、そのままビルとビルの隙間にある狭い隙間に連れ込みます。

私はそこで壁に手を付き、変態にオマンコを見せつけると、変態の理性は一瞬で飛んでしまいました。

はははは

ん

ん

はははは
はははは
はははは

ははは

ん

ん

ん

【変態】

「ぶひいひいひいっつ!!」

○学生のロリマンコオ!

「イリヤ」

「ひっ♡ ヤバっ♡ 私、

レイプされてるっ♡♡」

ロリコン童貞ストーカーの変態に、美少女である私の生オマンコは刺激が強かったのか、いきなりチンカスマミれのペニスをねじ込まれました。いくら私が挑発したとはいえ、完全な性犯罪者です。こういう変態なら、何の遠慮もする事はありません。

「イリヤ」

「ひっ♡ あっ...! あひいひいひいっつっつっつ!!」

ゾンビとは違う、生命力あふれるペニスで突き上げられ、私は善がり狂いました。

はははは
はははは
はははは

ん

ん

そして男は射精が近いのか、腰を密着させ、子宮内にペニスの先端を固定させました。

「イリヤ」

「私、初潮前だから♡

中を出していいよ♡」

【変態】

「ふごおおおおつつつ!!」

○学生に中出しいい!!」

興奮した変態は、私の子宮内へ精液を吐き出しました。生命力と欲望に満ちた精液から、大量の魔力が流れ込んで来ます。私は絶頂で体を痙攣させながら、精液も魔力も一滴残らず搾り取って行きます。そうして変態が精液を全て吐き出しつくした所で、私は呪文を唱えます。すると変態の目からは光が消え失せ、自我が消失していきます。これで完了です。私は新鮮な精液タンクを1体確保した所で、路地裏を後にしました。



一旦、城の地下牢に戻った私ですが、変態一人程度では当然満足できません。生命力の強い生き物による、荒々しく生命力あふれる狂暴なレイプを味わいたい。私はそう考え、私がいつも相手をしている、元気な男の子がいる海岸へとやって来ました。しかし、どうやら今日はその海岸に、暴走族の先客が居るようでした。丁度いいので、彼らも後ほど精液タンクとして回収する事にしましょう。

ムキキ



ザッ

ははは

「イリヤ」「こんばんはっ♡」

【族】「あん？ なんだお前？」

【族】「ガキがこんな時間に水泳の練習か？」

【族】「ピッチピチのエロいスク水で、変態かお前？」

【族】「そんな可愛い顔で、エロいスク水姿で深夜徘徊してると、悪いお兄ちゃん達に犯されっぞ？ ギャハハハハッツツ！」

暴走族は私の顔と身体をジロジロと見て、暴言を投げつけます。しかしその目には、私に対する性欲が満ちている事が分かります。



ザッ

「イリヤ」「ふうん…♥ お兄さん達に犯されるのも悪くないですね♥
でも残念でした♥ 今日の私の相手はこの子なんです♥」

私は彼らを挑発するため、そしていつもの相手を呼ぶために、
スク水越しにオマンコを広げて見せつけました。
すると、海岸沿いで寝ていた野良犬がムクリと起き上がり、
私に近寄り、オマンコの匂いを嗅ぎ始めました。

びくん

「族」「この子って…野良犬じゃねえか！」

暴走族がドン引きする中、私は四つん這い
になり、犬にオマンコを向けました。



ガクン

びくん

ビキキ

ビキキ

びくん



「犬」

「ぐるうううー!!」

「がううううっ!!」

「イリヤ」

「ひぎいつ!!」

「あああっ!!」

野良犬は何の遠慮もなく私のオマシコにその異形のペニスをぶち込んで来ました。先ほどの変態とは違い、野性味あふれる逞しい肉体は、私の全身が揺さぶられるほど激しく突き上げ、子宮内部をえぐっていきます。

「族」

「う、嘘だろ...?」

「マジで○学生が、あんな汚い野良犬と交尾してやがる...」

「イリヤ」

「ひぐっ♡」

「あっ♡」

「ああああっ♡♡♡♡」

「族」

「あのエロい声とトロけた顔...完全に変態だぜ...」

「あんな美少女が、犬に犯されて善がつてるのかよ...」

「獣姦なんてAV以外で初めて見た...やべ、エロすぎる...」

暴走族達はドン引きしつつも、私の交尾を見て興奮しています。言い訳のしようがない変態プレイ。滅茶苦茶に気持ちいいです。私は快楽に腰を震わせ、獣のようなあえぎ声を上げ続けました。



「犬」

「ぐるううううー!!
がうううううっ!!」

「イリヤ」

「あがつ…!!
ひぎいつ!!」

野良犬は何の遠慮も無く、
私の子宮内部へ、その精液を
吐き出して行きました。
種族が違うのに、絶対に
妊娠させる事は出来ないのに。
犬は本能のままに種付けし、
私はその乱暴さで蹂躪され
一気に絶頂してしまいます。

「イリヤ」

「あ…やばっ♡
子宮の中…♡♡

「族」

「子宮って…まさか犬チンポが
あんな小さい体の子宮の中に
突き刺さってるのか…?」

「族」

「おいおい…いくらなんでも変態すぎるだろ…!」

野獣に蹂躪され、子宮が屈服し、精液を搾り取って行きます。
私は無意識に膣を締め付け、犬に最大の快楽を与えようとします。
野獣は満足そうに、長い時間をかけて射精を続けていきます。
同時に、私の交尾を見て興奮した暴走族達は、ペニスを露出させ、
私の無様な有様を見ながら射精し、私を白く汚していくのでした。



交尾が終わった後、暴走族達はタバコをふかしながら、どこで拾ってきたのか、クスコを私の膣にねじ込んで、半開きになった子宮口からあふれ出す精液を、面白そうに撮影していました。

もうこれくらいで大丈夫でしょう。

私は彼らに向けて呪文を唱えようと、彼らの目からは一瞬で光が消え失せ、新たな操り人形になり果てるのでした。

男達は呆然とした顔のまま、その場でうめき声を上げ続けています。

【族】「オ……アツ……アアアアアアアツツツ……」

「イリヤ」 「グスクス♥ 私をレイプしたかったんでしょ？ 良かったね♥
これで私とやりたい放題だよ♥ つてもう聞こえてないかな♥♥」

止めて

ははは

私の魔法で自我を失った男達は、
ペニスを勃起させながら、虚空を見つめています。
私が命令すると、彼らは操り人形のように、
ふらふらと郊外の城の地下牢へ向かって歩み始めました。

「イリヤ」 「グスクス♥ しばらくの間、精液タンクよろしくね♥」

私は膣穴から精液を溢れさせながら、新たな肉奴隷の獲得に心を躍らせていました。

- 発行 女騎士の城
<http://knightmaster.kir.jp/>
- 責任者 ナイト
general@kagoya.net
- 作成 雪味あいりす・ナイト
- 日付 2022年12月31日
- 印刷 プリントプロ

※18歳未満の購読禁止
※無断転載禁止

































18歳未満の
購入・閲覧禁止

逆し獣姦魔法少女イナちゃん♡
監禁逆レイ? 変態挑発レイ? 獣姦撮影会♡

女騎士の城

私の名前は、イリヤスフィール・フォン・アインツベルン。魔法少女をやっています。魔法少女をやっている。私は魔力供給用のタンクとして、人間の男達を廃墟と化した城にある地下牢に監禁しています。私は今日も魔力の補充のため、その地下牢へとやって来ました。

「イリヤ」

「精液タンクのお兄さん達♡今日の魔力補充のお時間ですよ♡」

はははは

はははは

ヒキキ

ひひひ

私がそう告げて、大きく足を広げてオマンコを見せると、魔法によって自我を封印した男達が、一斉にペニスを勃起させていきます。私はその中の一人に跨って、そのペニスを狭い膣穴で咥え込みました。



【男】「ウゴオオオオオオツツツ…！ アアアアアツツツ！」
「イリヤ」「ひっ♡ んあああつつ♡♡♡」

私が男のペニスを挿入すると、男は自我を失っているにも関わらず、大きなうめき声をあげて、腰をビクンビクンと跳ね上げます。自我を保っていた頃はロリコンだったので、その本能でしょうか。

「イリヤ」「ほらほらっ♡ もっと腰を突き上げてっ♡
イリヤの子宮にオチンチンねじ込んでっ♡」

【男】「オゴツ…！ オオオオアアアツツ…！」

私は魔力を最大限に吸収できるよう、魔法を使って子宮口を開き、子宮内にペニスが入るようにします。それが気持ちいいのか、ロリコン男はひたすらに私の子宮内部を突き上げ、腰を振り続けています。



「イリヤ」 「お兄さんは競泳水着の方が興奮するんだっけ？
ほら、これでどう？ クスクス♡」

私が競泳水着に着替えて両足を広げると、今度はチャライ
外見の男が、興奮して襲い掛かってきました。

ははは

「更」 「オオオオオツツ……！ オアアツツ！」
「イリヤ」 「うわっ♡ お兄さん
がつつきすぎつつっ♡」

チャライ男は興奮しながら、私の子宮を
突き上げ、激しいレイプをしてきました。
チャライ男は腰を突き上げながら射精し、
私の子宮奥に精液を押し込んで来ます。
膣の隙間から精液が飛び散る感触で、
私は再び絶頂の快楽を味わっていました。



そしていつも通り、全員から1回ずつ搾り取った所で、男達は動かなくなりました。

【私】「はあっ…♥ はあっ…♥ も、もう終わっちゃった…♥」

【私】「んっ…♥ でも流石に、精液の質も魔力の質も、悪くなって来たかな…」

私がオマシコを広げると、奥からは男達の精液があふれ出し、地面に水たまりを作ります。いくら自我を封じ本能がむき出しとは言え、一か月以上、毎日搾り取つていれば、精液や魔力の質が下がるのは当然です。そろそろ新しい玩具が欲しいかも。そう考えた私は、街に潜む変態を釣り、新たな精液タンクを作る事に決めました。



私は深夜になるのを待ち、体操用のレオタードに着替えて繁華街へと向かいました。
この時間になると、私のような年頃の女の子は出歩いておらず、
私は残業帰りのサラリーマンや、夜遊びする男達の注目を集めます。

【通行人】

「うわ、あの子可愛いな…○学生くらいかな？」

【通行人】

「ていうか、あんなレオタードで外出とかエロすぎるだろ…」

【通行人】

「こんな時間に家出か…？ それともヤバイやつか…？」

【通行人】

「うーん、関わらない方がよさげだな…」

ヒキキ



ザッ
ザッ

ははは

通行人たちの噂話が、魔法で聴力を高めた私に耳に届きます。
当然、彼らはそんな噂話をするだけで、私を遠巻きに眺めています。
しかしそんな中、呼吸を荒くしながら、私の後をつけて来る足音が聞こえてきました。

【変態】

「はあっ…はあっ…レオタード美少女…はあっ…はあっ…」

変態が釣れたようです。私は変態を誘導するように、人気の少ない路地裏の方向へと歩いていきました。



人通りの無い路地に入り込むと、より鮮明に変態の発する音が聞こえてきます。

【変態】「はあっ…はあっ…あの美少女の家を突き止めて…盗撮して…下着を盗んで…」

まさか私に聞かれていると思っていけないのか、そんな事をぶつぶつ呟いています。
犯罪的な性欲丸出しのその呟きに、私も次第に興奮し、我慢が出来なくなってしまう。
完全に人が居ない事を確認した私は、変態に向かって振り回りながら、
レオタードの股間を少しだけずらし、愛液を滴らせました。

山キキ



はあっ
はあっ

【変態】「はあっ…はあっ…え、えええっつー!？」

「イリヤ」 「クスクス♥ 私の下着くらい、欲しければあげるから♥」

その代わり、イリヤのお願い聞いてくれる? ロリコンのおにーさんっ♥」



私の突然の行動と発言に、変態は混乱して固まっています。

私はそんな変態の手を掴み、そのままビルとビルの隙間にある狭い隙間に連れ込みます。

私はそこで壁に手を付き、変態にオマンコを見せつけると、変態の理性は一瞬で飛んでしまいました。



はははは

ん

ん

はははは
はははは
はははは

ははは

ん

ん

ん

【変態】

「ぶひいひいひいっつ!!」

○学生のロリマンコオ!

「イリヤ」

「ひっ♡ ヤバっ♡ 私、

レイプされてるっ♡♡」

ロリコン童貞ストーカーの変態に、美少女である私の生オマンコは刺激が強かったのか、いきなりチンカスマミれのペニスをねじ込まれました。いくら私が挑発したとはいえ、完全な性犯罪者です。こういう変態なら、何の遠慮もする事はありません。

「イリヤ」

「ひっ♡ あっ……! あひいひいひいっつっつっつ!!」

ゾンビとは違う、生命力あふれるペニスで突き上げられ、私は善がり狂いました。

はははは
はははは
はははは

ん

ん



そして男は射精が近いのか、腰を密着させ、子宮内にペニスの先端を固定させました。

「イリヤ」

「私、初潮前だから♡

中を出していいよ♡」

【変態】

「ふごおおおおつつつ!!」

○学生に中出しいい!!」

興奮した変態は、私の子宮内へ精液を吐き出しました。生命力と欲望に満ちた精液から、大量の魔力が流れ込んで来ます。私は絶頂で体を痙攣させながら、精液も魔力も一滴残らず搾り取って行きます。そうして変態が精液を全て吐き出しつくした所で、私は呪文を唱えます。すると変態の目からは光が消え失せ、自我が消失していきます。これで完了です。私は新鮮な精液タンクを1体確保した所で、路地裏を後にしました。



一旦、城の地下牢に戻った私ですが、変態一人程度では当然満足できません。生命力の強い生き物による、荒々しく生命力あふれる狂暴なレイプを味わいたい。私はそう考え、私がいつも相手をしている、元気な男の子がいる海岸へとやって来ましたが、どうやら今日はその海岸に、暴走族の先客が居るようでした。丁度いいので、彼らも後ほど精液タンクとして回収する事にしましょう。

ヒキキ



ザッ

ははは

「イリヤ」「こんばんはっ♡」

族「あん？ なんだお前？」

族「ガキがこんな時間に家出か何かか？」

族「そんなエロいバニーガール姿で、変態かお前？」

族「そんな可愛い顔で、エロい恰好で深夜徘徊してると、

悪いお兄ちゃん達に犯されっぞ？ ギャハハハハッツツ！」

暴走族は私の顔と身体をジロジロと見て、暴言を投げつけます。しかしその目には、私に対する性欲が満ちている事が分かります。



ザッ

「イリヤ」「ふうん…♥ お兄さん達に犯されるのも悪くないですね♥
でも残念でした♥ 今日の私の相手はこの子なんです♥」

私は彼らを挑発するため、そしていつもの相手を呼ぶために、
網タイツ越しにオマンコを広げて見せつけました。
すると、海岸沿いで寝ていた野良犬がムクリと起き上がり、
私に近寄り、オマンコの匂いを嗅ぎ始めました。

「族」「この子って…野良犬じゃねえか!」

暴走族がドン引きする中、私は四つん這い
になり、犬にオマンコを向けました。



ヒキキ

ムンムン

ムン



「犬」

「ぐるうううー!!
がううううつ!!」

「イリヤ」

「ひぎいつ!!
あああつ!!」

野良犬は何の遠慮もなく
私のオマシコにその異形の
ペニスをぶち込んで来ました。
先ほどの変態とは違い、
野性味あふれる逞しい肉体は、
私の全身が揺さぶられるほど
激しく突き上げ、子宮内部を
えぐっていきます。

「族」

「う、嘘だろ...?」
「マジで○学生が、
あんな汚い野良犬と
交尾してやがる...」

「イリヤ」

「ひぐっ♡ あっ♡
あああつつつつ♡♡♡」

「族」

「あのエロい声とトロけた顔...完全に変態だぜ...」
「あんな美少女が、犬に犯されて善がつてるのかよ...」
「獣姦なんてAV以外で初めて見た...やべ、エロすぎる...」

暴走族達はドン引きしつつも、私の交尾を見て興奮しています。
言い訳のしようがない変態プレイ。滅茶苦茶に気持ちいいです。
私は快楽に腰を震わせ、獣のようなあえぎ声を上げ続けました。



「犬」

「ぐるうううー!!
がううううつ!!」

「イリヤ」

「あがつ…!!
ひぎいつ!!」

野良犬は何の遠慮も無く、
私の子宮内部へ、その精液を
吐き出して行きました。
種族が違うのに、絶対に
妊娠させる事は出来ないのに。
犬は本能のままに種付けし、
私はその乱暴さで蹂躪され
一気に絶頂してしまいます。

「イリヤ」

「あ…やばっ♡
子宮の中…♡♡

気持ちよすぎ♡」

「族」

「子宮って…まさか犬チンポが
あんな小さい体の子宮の中に
突き刺さってるのか…?」

「族」

「おいおい…いくらなんでも変態すぎるだろ…!」

野獣に蹂躪され、子宮が屈服し、精液を搾り取って行きます。
私は無意識に膣を締め付け、犬に最大の快楽を与えようとします。
野獣は満足そうに、長い時間をかけて射精を続けていきます。
同時に、私の交尾を見て興奮した暴走族達は、ペニスを露出させ、
私の無様な有様を見ながら射精し、私を白く汚していくのでした。



「イリヤ」「はあっ…♡ はあっ…♡」
【族】「ふう、まさかこんな面白いショーが見れるとはな…」
【族】「次は美少女の学生獣姦AV配信で二儲けたな！」

交尾が終わった後、暴走族達はタバコをふかしながら、どこで拾ってきたのか、クスコを私の膣にねじ込んで、半開きになった子宮口からあふれ出す精液を、面白そうに撮影していました。もうこれくらいで大丈夫でしょう。私は彼らに向けて呪文を唱えると、彼らの目からは一瞬で光が消え失せ、新たな操り人形になり果てるのでした。



男達は呆然とした顔のまま、その場でうめき声を上げ続けています。

【族】「オ……アツ……アアアアアアアツツツ……」

「イリヤ」 「グスクス♥ 私をレイプしたかったんでしょ？ 良かったね♥
これで私とやりたい放題だよ♥ つてもう聞こえてないかな♥♥♥」

ヒキキ

ははは

私の魔法で自我を失った男達は、
ペニスを勃起させながら、虚空を見つめています。
私が命令すると、彼らは操り人形のように、
ふらふらと郊外の城の地下牢へ向かって歩み始めました。

「イリヤ」 「グスクス♥ しばらくの間、精液タンクよろしくね♥」

私は膣穴から精液を溢れさせながら、新たな肉奴隷の獲得に心を躍らせていました。

- 発行 女騎士の城
<http://knightmaster.kir.jp/>
- 責任者 ナイト
general@kagoya.net
- 作成 雪味あいりす・ナイト
- 日付 2022年12月31日
- 印刷 プリントプロ

※18歳未満の購読禁止
※無断転載禁止































